

## 紹介事例の類型

### ■ 分類指標について

#### ① 利用者類型

事業・システムを利用する高齢者を以下の3タイプに分類しました。

- イ 健康・元気で自立して生活している
- ロ 独居高齢者等で見守りや在宅介護などのサポートが必要
- ハ 介護施設等に入居している

#### ② 建物の種類

高齢者の住まいと一体の場合とそうでない場合に大別されます。住まいと一体の場合は、建物の種類を以下の4つに分類しました。

- イ 高齢者賃貸住宅、高齢者マンション等  
自立した個人の集まりなので、「農ある暮らし」を楽しむためのルール作りやコミュニケーションのための工夫が必要です。
- ロ グループリビング、コレクティブハウス等  
「農ある暮らし」は家事等の共同作業の一部として位置づけられています。
- ハ 有料老人ホーム  
健康型、住宅型から介護施設に近い介護型まで幅広いタイプが含まれますが、ここでは有料老人ホームとして分類しました。  
「農ある暮らし」は施設管理者の判断、責任の下に運営されるケースが多くなっていますが、一部の人が参加する場合には負担の仕方等に工夫が必要です。
- ニ 介護施設（特別養護老人ホーム、グループホーム等）  
サポートなしには「農ある暮らし」を楽しむことができない利用者が大半であり、施設管理者の判断と責任の下、専門家のプログラムとスタッフのサポートにより運営されます。

#### ③ 農空間

- 住まいと一体の場合は、敷地内の菜園や屋上庭園を利用して行われるケースがほとんどですが、農家が施設を運営する場合等で農家の協力が得られれば隣接農地（生産緑地等）を利用することも可能です。
- 農地利用の場合は、特定農地貸付法による貸し付けを受けて耕作を行う「市民農園方式」と、農家の指導の下で耕作を行う「入園方式」（農園利用方式、体験農園方式）に分かれますが、要介護者等を対象としたものや介護予防として（独居老人等を対象として）行われる場合は、農業者の理解・協力の下で「入園方式」により行われるケースがほとんどとなっています。

#### ④ 楽しみ方

農の楽しみ方を5つに分類しました。

- イ 収入確保

健康・元気で自立している人の場合は、近所に条件の合致する農業者や農業生産法人等がいれば、被雇用者として報酬を得て農作業に携わることも可能です。

#### ロ 農作業——トータル

健康・元気で自立している人の場合は、「市民農園方式」や「入園方式」によって農地で四季を通じたトータルな農作業に携わることができます。

#### ハ レクリエーション——園芸的楽しみ

建物敷地の菜園や屋上を利用する場合は、むしろ、施設管理者やコーディネーターのリードの下でレクリエーション活動として園芸的に楽しむことが多くなります。

#### ニ リハビリの手段——植え付け、収穫

介護型老人ホームや特別養護老人ホーム等の場合、ヘルパー、ボランティア等の身体的援助を得て、専門家の指導の下、園芸療法としてリハビリテーション等の一環で参加することとなります。

#### ホ 新鮮な食材

住まいと一体の場合、収穫された新鮮で安全な野菜等を調理して食べることは、利用者の類型や菜園の広さ等にかかわらず入居者の大きな楽しみになっています。  
また、そうでない農地利用の場合も、持ち帰って自宅で食べるだけでなく、近所の人たちに配って喜ばれるなど、さまざまな楽しみにつながります。

#### ⑤ 交流

農を通じたさまざまな活動は、高齢者以外の若年世代や児童等との自然な交流の場や地域コミュニティへの参加機会などをつくってくれ、高齢者にとってそうしたことは日々の暮らしへの意欲や生きがいをもたらしてくれます。

#### ⑥ サポーター

元気で自立している以外の方がレクリエーション、リハビリ等に参加しようとしたとき、次のような場面で専門家や施設職員等のサポーターの力が必要になります。

- 菜園等を維持するうえで必要な日常的な耕作・管理作業
- 高齢者が植え付け、収穫を行う際の下準備
- 要介護・支援者が作業を行う場合の身体的なサポート
- 園芸療法を用いる場合は、専門家によるプログラム作成・コーディネート

小規模の事業・システムの場合は意欲のあるリーダーが一人で面倒を見ることも可能ですが、老人ホームや介護施設の場合は施設職員や施設が手配した専門家を中心となり、NPOのスタッフやボランティアの力を借りて実施することが多いようです。

また、農地利用等の場合は、NPOや団体が中心となり、ボランティアを募って実施しているケースが多いようです。

